読谷村「村木・村花・花木・村魚」

村木：フクギ

雄 雌 異 株 で高さ 20mくらいに達する常緑広葉樹。沖縄では古くから織物用の黄色の染料を採る材料（樹皮）として利用されるとともに、海岸、屋敷の防風林としてかかせない沖縄を代表する緑化樹である。

（2000 年 3 月制定）

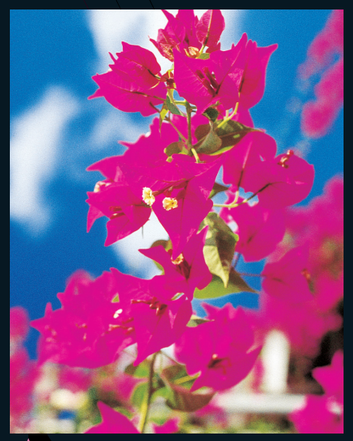
花木：コガネノウゼン

（イッペー）

高さ 30mぐらいに達し、直立する落葉広葉樹。原産地はブラジルで、本県には 1974 年に導入された。
鮮やかな黄色の花は南国的な雰囲気をかもし出す。

（2000 年 3月制定）

改正 平成 12 年 4 月 18 日 告示第 25 号
（村木・村花・花木）
公布 平成 29 年 7 月 14 日 告示第 98 号
（村　　魚）



村花：ブーゲンビレア

情熱・明るさ・繁栄の象徴をあらわしている。ブラジル原産のツル性花弁。日当たりがよく水はけのよい土地を好み、栽培も挿し木で増やせる。1 年を通して色どりの花を咲かせてくれる。

（1986 年 4 月制定）

村　魚：ジンベエザメ

成長すると 10m～ 12mになる世界最大の魚類。本村の大型定置 網で年間に数匹が捕獲され、都屋漁港沖にある大型生け簀で飼育されており、今ではジンベエザメを活用した観光プログラムが定着するなど、言わずと知れた本村の海洋資源のシンボル的な存在となっている。

（2017年 7月制定）

読谷村歌

（昭和五一年一二月二四日制定）
作詞 渡久山 朝章 作曲 田場 盛徳 編曲 高宮城 徹夫

一 矢倉の嶺の　朝ぼらけ
残波の里や　比謝川畔
座喜味の城の　森かげの
和みの郷は　明けて行く
えにし結べる　村人の
これぞ産土　うまし村

二 歴史は古き 大北の
遠き世々から 受けつぎし
民族文化　燦然と
光り輝く　誇らかに
ここに咲きたる　花織や
インコネアガリ　声高し

三 新しき世の　訪れぞ
平和の願い　胸に秘め
協和向上　目標にて
住み良き村の　建設に
同胞ともに　手をとりて
いざ進めなん　自治の旗

画：名嘉睦稔

令和元年度 読谷村村勢要覧

発行：沖縄県読谷村役場　ゆたさむら推進部企画政策課
TEL 098-982-9205　https://www.vill.yomitan.okinawa.jp/
発行年月：令和２年３月　制作・印刷：株式会社 プロジェクト・コア